

2025（令和7）年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2026年5月

大井うさぎ幼稚園

1. 本園の教育目標

「自分で考えて、自分で行動できる」ようになること

2. 重点目標

一人一人の幼児を大切にしたい質の高い教育の実践

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
(1) 教育環境 自由な時間の遊び込める環境を作り、子どもの自ら「・・・したい」という気持ちを大切に出来るように工夫すること	B	夏頃から製作活動を取り入れたこともあり、室内・戸外と遊びの選択肢が増え、対応することができた。子どもたちの遊びへの挑戦をサポートする工夫が必要であり、来年度への課題として次年度につなげる。
(2) 教育環境 教職員が子どもの育ちを理解、把握し職員全体で適切な関わりができるように情報を共有すること	B	クラスでの情報共有を行い、対応方法を相談しながら積極的に行うことができた。 職員全体へ情報を共有することが難しいため、共有方法を検討し、保育に活かしていく。
(3) 教育環境 子ども一人ひとりの行動を観察し、見守りと援助のバランスを適切に行うこと	B	クラス内での子どもの対応については比較的、連携が取れていた。全体としては個々の見守りと援助に差があり対応については共通になるように話し合いを定期的に行う。
(4) 特別支援教育	A	各クラスの職員が積極的に関係諸機関と連絡をとり情報共有をし日々の保育に活かす努力をしてきた。

評価

(A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが、成果が十分でない D 取り組みが不十分である。)

4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	子どもが遊びの選択をし、園生活を楽しむことができた。 保護者の方々からも高い評価を受けることができた。 子どもたち一人ひとりに寄り添った保育職員全体で行なってきた。子どもたちは充実した園生活を行うことが出来たとアンケートで評価された。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育の適切な援助	<ul style="list-style-type: none"> 気になる子どもへの対応について職員で意見交換をし、対応の仕方学ぶ。 クラスの子どもの友達関係を図式化し、日々の保育と照らし合わせてその後の援助の方向性を見出していく。
室内・戸外遊びの充実	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが興味を持つような環境を準備し、気持ちに沿った援助をしていくことで遊びの楽しさを感じられるようにする。
園児・職員募集	当園に興味を持っていただいた方に定期的な情報発信を行い、広報活動を行う。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- 子どもたちの成長発達に応じた保育を行う考えのもと、充実した園生活が送れていることを再認識していただいた。
- 絵本に関する取り組みについてご意見をいただいたので、次年度、子どもたちへの発信、環境構成の工夫など考えていきたい。
- トイレの衛生面について指摘があった。より一層気をつけていくと共に園児への指導も工夫して取り組んでいく。
- 保護者自身が、特別支援児にまつわる対応について分からないことが多いという話があった。5月の保護者会で自己紹介という形から情報を得て、相互の理解を深めていく対応を試みることから始める。
- 発表会の日程・期間短縮などについてご意見をいただいた。行事と日々の遊びとのバランスについて考慮し検討していく。